

NUMOの科学的有望地提示後の対話活動 の進め方及び地域共生の考え方 (補足説明)

※今後の全国シンポジウム等で国民の皆さまにご紹介する資料として作成

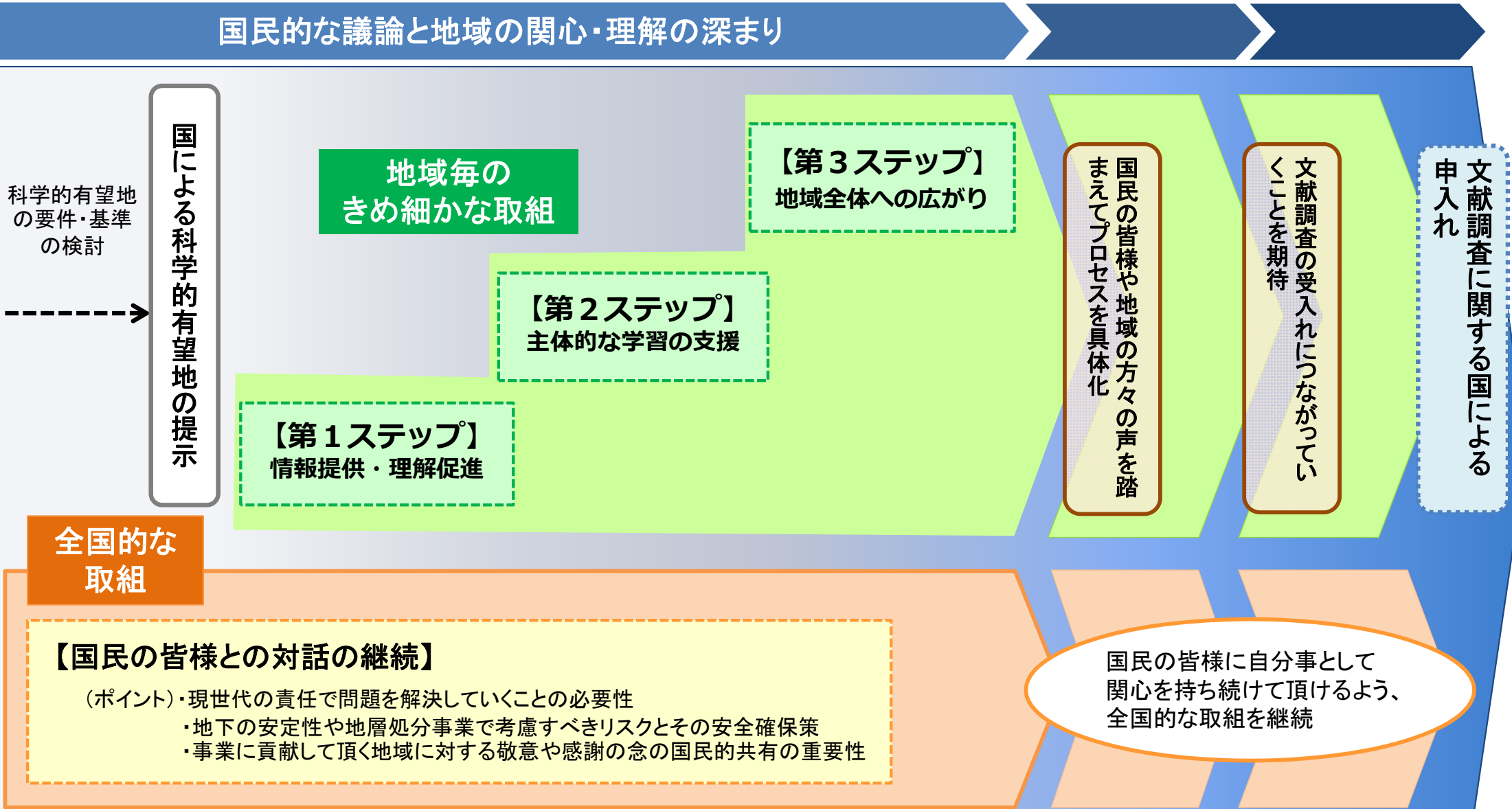
2016年4月26日
原子力発電環境整備機構(NUMO)

科学的有望地提示後の対話活動の基本姿勢

- NUMOは、「地層処分事業を必ず実現させる」との強い意思で、技術的な信頼性向上、地域の皆様との対話活動など不断の努力で取り組んでまいります。
- 科学的有望地の提示後も、地層処分になじみのない方が引き続き多いとの認識に立ち、高レベル放射性廃棄物の問題の存在や地層処分の概要などについて、しっかりとご説明します。
- 一人でも多くの方に地層処分事業に関心を持っていただくため、科学的有望地を中心に、丁寧に対話活動を積み重ねます。
- 関心を持っていただける方々の学習活動を支援するため、講師の派遣や関連施設の見学会開催など、様々なメニューを提供していきます。
- こうしたメニューを活用し、文献調査の受入れの可能性も視野に、主体的に学習活動を進めていただけるグループが生まれ、そうした活動が地域の中で広がっていくよう、NUMOとして最大限取り組みます。
- 合わせて、処分事業の実現が社会全体の利益であるとの認識が広く国民の皆様にも共有されるよう、国とともに全国的な対話活動を行ってまいります。

科学的有望地提示後の対話活動の流れ①

●科学的有望地の提示後、地域によって進むタイミングは異なると思いますが、下図のようなステップを踏んで地域における対話活動を深めていく考えです。



科学的有望地提示後の対話活動の流れ②

第1ステップ: 情報提供・理解促進

- 高レベル放射性廃棄物の問題の存在や地層処分の概要、処分地選定の進め方などについて説明し、関心を持っていただけるよう、電気事業者と緊密に連携し、全国各地で説明会等を積み重ねます。
- 関心を持っていただける方々に向け、講師の派遣や関連施設の見学会開催など様々な学習メニューを整備し、地層処分の学習にかかる費用(講師謝礼、会場使用料等)を支援します。NUMO以外の専門家からも話を聴いていただけるよう、協力を求めてまいります。

第2ステップ: 地域団体等による主体的な学習の支援

- 地域に根差した活動を行っている団体等に、地層処分で考慮すべきリスクとその安全確保策などについて主体的に学習活動を進めていただけるよう、上記支援メニューを提供します。
- NUMOの地域共生の考え方などもお示しし、地域と処分事業の将来ビジョンを一緒に考えていきます。
- 文献調査を受け入れていただいた場合の調査の進め方についても一緒に考えていきます。

第3ステップ: 地域全体への広がり

- 主体的な学習活動が地域全体へ広がっていくよう、NUMOとして取り組みます。
- その方策は、様々な専門家にも関与いただきつつ、地域の多様な方々に参加いただくことが重要と考えていますが、第1～第2ステップを進めていく中で、地域の皆さまの意見を踏まえて具体化してまいります。
- 本ステップでは、自治体にも適切に関与いただきたいと考えています。

●NUMO経営理念（2014年10月31日制定）（抜粋）

基本方針

私たちは、すべてにおいて安全を最優先します

私たちは、地域との共生を目指します

私たちは、社会から信頼される組織を目指します

行動指針

地域の一員として共に考え、共に行動し、地域の皆様が真に望むまちづくりに貢献します

- ・地層処分事業は100年以上の長期にわたる事業であるため、地域の発展を支えとしてこそ、事業を安定的に運営することが可能と考えます。建設までには、NUMOは本拠を現地に移転し、地域の一員として地域の発展に貢献します。
- ・NUMOは、地域のみなさまと常にコミュニケーションを取りながら、事業による地域への影響を総合的に勘案し、地域のみなさまが「良かった」とお考えいただける「共生」、win-win の関係を目指します。
- ・地域の雇用や経済などへのプラスの影響ができるだけ大きくなるように努めるとともに、マイナス影響（風評被害等）を予防する措置を検討、実施します。

NUMOの地域共生の基本的な考え方②

- NUMOとしては、基本的に以下のような地域共生を図っていく考えです。
- その実現に向けては、国の協力も得ながら、地域の方々とコミュニケーションを重ね、ニーズを汲み取り、具体化してまいります。

【活気のあるまちづくり】 ～生き生き地域社会の実現に向けて～

- ・地元経済の活性化に貢献（資材の地元調達、地域特産品の販売支援、など）
- ・若者が定着できる雇用の創出と雇用につながる教育投資
- ・魅力的なまちづくりのための文化的支援

【安心して暮らせるまちづくり】 ～NUMOのふるさとの町として～

- ・安心して子供を産み、育てられる町に 医療インフラの充実
- ・子供もお年寄りも一緒に暮らせるコミュニティをつなぐ交通・情報インフラの充実

【事業にともなうインフラ整備など】 ～地域の利便性等の向上～

- ・道路・港湾の改修・拡張、情報通信システムの向上
- ・地下研究所、技能訓練センターの整備

文献調査の進め方① ～全体像～

- 文献調査は、受入市町村を対象とし、その結果を踏まえて当該市町村の中から数km四方程度の概要調査地区を見出していくことが目的です。地域の安全を第一に、しっかりと技術的検討を行うとともに、「対話の場」等を通じて、絶えず地域の皆様とコミュニケーションを図りながら、関心・意向を踏まえて進めてまいります。

①文献による評価を行い、法定要件を満足しない範囲を除外します

・地震等の自然現象による地層の著しい変動の記録がないこと、将来にわたってそうした変動の生ずるおそれが少ないこと など

(法定要件を満足しない範囲を除外)

②安全性の観点から技術的検討を行います

・地下水の状況等を踏まえた埋設後の長期の安全性
・操業時・輸送時の安全性 など

③経済社会的な観点からも検討を行います

・自然環境、地域経済・生活・文化、事業遂行への影響 など
(「対話の場」を通じて寄せられる住民の皆さまの関心や意向を踏まえて、「経済社会影響調査」等を実施します)

(総合的に評価)

(評価結果の報告、自治体との話し合い)

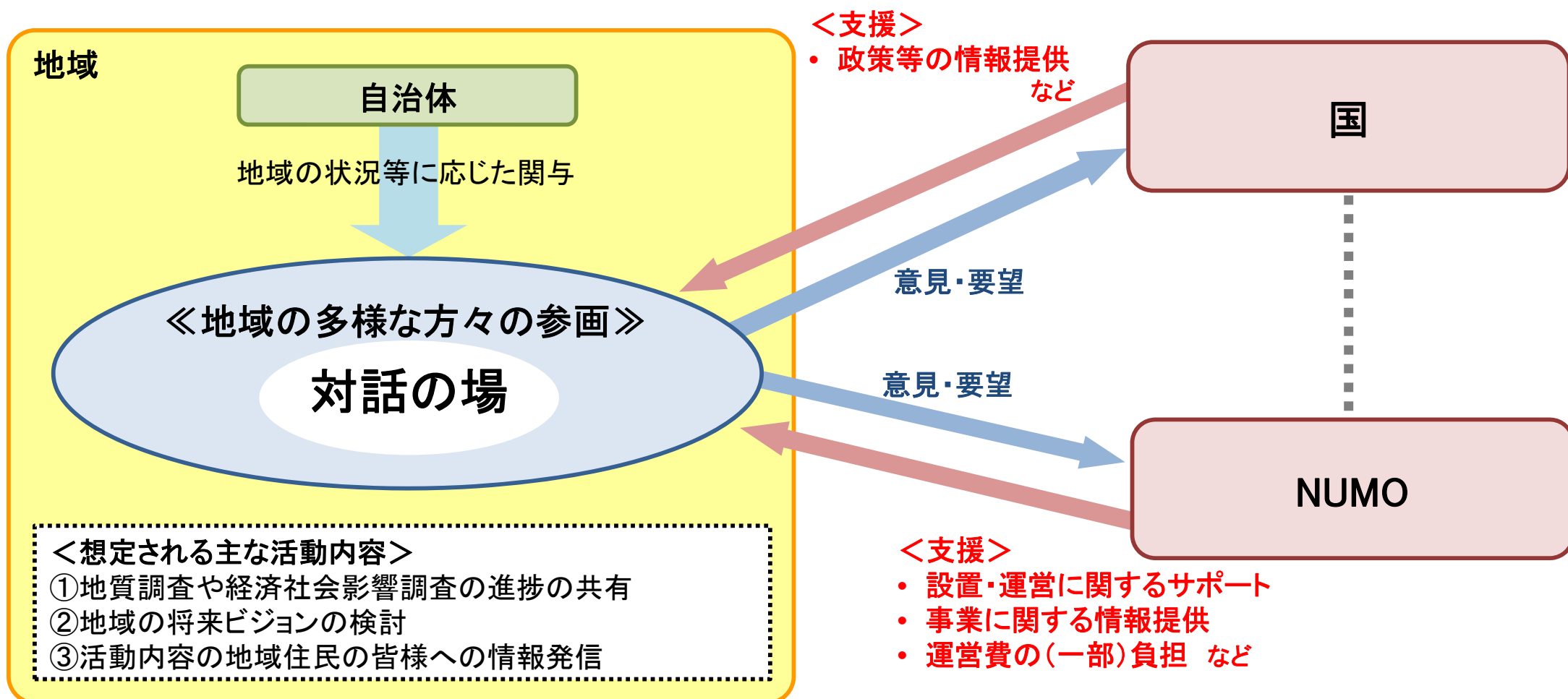
概要調査地区の選定、概要調査の計画

(経済産業大臣に申請)

経済産業大臣から市町村長、都道府県知事の意見の聴取(反対の場合には次の段階に進まない)

文献調査の進め方② ～「対話の場」の基本設計～

- 安全確保策、地域経済への影響など、処分事業に関連する情報を地域の方々が共有し、対話することで理解を深めていただくことを目的に、「対話の場」の設置を支援します。
- 自治体の関与や参画メンバー、NUMOの関わり方等については、当該自治体（原則市町村）の判断で決めていただくことが基本です。今後、どのような設計や活動内容が標準的に考えられるかについて、NUMOとして具体的に示していく考えです。



文献調査の進め方③ ～「経済社会影響調査」の基本設計～

- NUMOは、地域の皆様に対し概要調査受入れの判断材料の1つとして提供するため、自治体・住民の皆様とのコミュニケーションを図りつつ、処分事業が地域の経済社会に及ぼす影響について調査を行います。
- 調査の内容や進め方・結果については、「対話の場」などを通じて、自治体・住民の皆様と主体的に検討いただき、調査をより良いものにしていきます。

<「経済社会影響調査」の進め方のイメージ>

